

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新政権による経済対策、金融政策の効果などから期待感が高まり景気は緩やかに持ち直しておりますが、所得の動向や雇用情勢には依然として不透明さが残る状況で推移しました。

医療界、介護業界におきましては、少子高齢化の進展に伴い高齢者人口が増加するなど、社会構造が変化していく中で効率経営が求められております。

このような環境の下で、当社グループは、医療・介護サービスの潜在的な需要が拡大するものと捉え、安全性を最優先としつつ事業規模の拡大に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高5,606百万円(前年同期比9.8%増)、営業利益339百万円(前年同期比12.7%増)、経常利益321百万円(前年同期比14.8%増)、四半期純利益176百万円(前年同期比49.1%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① 調剤薬局事業

調剤薬局事業におきましては、前年度に3店舗が新たに加わったことと、既存店舗において処方箋の応需枚数が増加すると共に処方箋単価が上昇したことにより、売上高は5,003百万円(前年同期比8.5%増)となりました。営業利益は、薬価改定の影響で昨年4月に計上した在庫評価損が生じず407百万円(前年同期比15.2%増)となりました。

② ヘルスケア事業

ヘルスケア事業におきましては、施設への入居者数が増加したことと、前年度に開業した介護付有料老人ホーム2施設の増加と訪問介護事業への参入により、売上高341百万円(前年同期比19.9%増)、営業利益19百万円(前年同期比53.1%減)となりました。

③ 医薬品卸事業

医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品使用促進策に沿って市場が拡大する中で、積極的な営業活動を展開し、売上高243百万円(前年同期比29.4%増)、営業利益23百万円(前年同期比5.8%減)となりました。(内部売上を含む売上高は351百万円となり、前年同期比で25.8%増加しました。)

④ 不動産事業

不動産事業におきましては、保有する不動産からの安定した賃料収入により、売上高17百万円(前年同期比5.0%減)、営業利益8百万円(前年同期比11.9%減)となりました。

また、投資事業として、株式会社ヘルスケア・キャピタルにて株式への投資を行っております。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。